

ちょっといい話



## 母ちゃんハウスだあすこ沿岸店

大槌町にある産直「母ちゃんハウスだあすこ沿岸店」では、新鮮な野菜や果物はもちろん、花や加工品など充実した商品を取り揃えています。今回は、その中でもオススメの商品をご紹介します。※価格は全て税込みです

### ☆JAが開発! オリジナルドレッシング☆



当JAが全国屈指の栽培面積を誇る雑穀に、大槌町の特産物であるシタケや三陸産のワカメなどを原料に加えたドレッシングです。(各500円)

### 商品が更に充実! ハンドメイドコーナー

大槌町の観光地をデザインした小物やかわいいキーホルダーなど、一点物を取り揃えています。お土産にオススメです!



### 食事・休憩は食堂で!



日替わり 母ちゃん定食 (650円)  
産直「母ちゃんハウスだあすこ沿岸店」大槌町大槌16-28  
営業時間: 午前9時~午後6時 (12月~2月は午後5時まで)  
定休日: 年末年始と第2木曜日 (祝祭日と重なった場合は変更あり)

### 野菜まるごとスムージー (350円)

**皆さんも産直に出荷してみませんか?**

母ちゃんハウスだあすこ沿岸店では、出荷会員を募集しています。野菜や花のほか、加工品やハンドメイド品なども販売できます。まずは、お気軽にお問い合わせください。

産直「母ちゃんハウスだあすこ沿岸店」 ☎0193-42-8151

CONTENTS

ぼらーの花巻 ●No.241 / 平成30年(2018)3月号

02 ぼらーのCOVER STORIES  
愛農土に生きるII

04 特集  
組合員・地域住民が自慢できる  
JAいわて花巻になるために!

08 ぼらーのNEWS ●地域の話題

10 あぐりネット

12 がんばる青年部 / 知って納得JA

13 旬の産直大百科 / ぼらーの広場

14 Information ●理事会だより / 監事会だより / 役員室より

20 風趣点景 ●管内四季だより / 編集後記

1.いつも明るい笑顔が絶えない組合員たち 2.大切に育てたホウレンソウを収穫する小豆島さん 3.以前は産直「結ゆい」を運営。震災後の地域農業を支えた 4.農林中央金庫から助成を受け、昨年7月に完成した真新しいパイプハウス 5.一部の野菜は産直「母ちゃんハウスだあすこ沿岸店」に出荷。冬はホウレンソウが並ぶ

**寒** 風が漂う大槌町を訪ねると、真新しいパイプハウスとともに温かな笑顔溢れる農事組合法人・大槌結ゆいの皆さんが出迎えてくれた。平成23年11月。東日本大震災の大津波により大槌町は大きな被害を受けた。農業も大打撃を受けたが、国や町などの支援があり農地が復旧。震災直後から農業振興と食の供給に奮闘した農事組合法人・産直「結ゆい」が平成28年に農業

生産法人化し、復旧した農地の担い手となった。そんな法人を後押ししようと、温かな支援の輪が広がっている。その1つがパイプハウスの導入だ。農林中央金庫が被災地域の園芸振興や地域活性化に繋げようと導入資金の一部を助成。JA職員の協力も得ながら建設し、昨年7月に完成した。そのパイプハウスの管理を

きっかけにUターン就農した小豆島一欽さんだ。期待の星として、組合員や県農業改良普及センターのほか、JAも週に数回訪問して丁寧に指導している。佐々木重吾代表理事(表紙写真下段中央)は「たくさんの知識を吸収してスキルアップしてほしい。将来は法人の経営者になってもらえば」と期待を寄せる。小豆島さんは、昨年の台風による浸水被害を顧みて「一年を通

して安定収入を得られるように頑張りたい」と意気込む。震災後、農家の救済として立ち上がった同法人。現在では後継者の育成に励むなど、復興に向けて着実に歩みを進めている。佐々木代表理事は「この法人が新規就農者の活躍の場となり、将来的には大槌町の農業の担い手になりたい」と熱く語る。希望に溢れ、大槌町の農業の未来が今、動き出す。

# 支える地域農業と震災復興 新規就農者とともに“大槌の未来”を切り拓く

農事組合法人 大槌結ゆい ◎大槌町



【農園データ】大槌町の農家10人で構成。町や農林中央金庫からの助成金のほか、遠野市認定農業者協議会から堆肥やもみ殻の提供を受けて作業も協力いただくなど、支援が広がっている。平成30年度は、パイプハウス5棟でホウレンソウとピーマンを栽培するほか、露地ピーマン8aと県オリジナル酒米「吟ぎんが」を約40aで栽培する予定。出荷する野菜の一部は産直「母ちゃんハウスだあすこ沿岸店」に並ぶ。平成29年度の実績は、販売額310万円。